

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 3 号

令和3年 11月 10日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 田村 拓之

【提案日時】

10月 6日 (水)

提案 小池 悠 先生 (希望ヶ丘小)

【会 場】

Google Meet を使用してのオンライン研修会

司会 田村 拓之 先生 (稲荷台小)

記録 田倉 直哉 先生 (茅ヶ崎小)

1 提案内容 単元名


単元名 「日本の自然と共に生きる人々～2つのスイカから見る国土と暮らし～」

2 提案者より

「自然条件と人々の暮らし」について、小単元を2つ合わせた単元として行った。本単元では、「自然条件に適応した生活」を中心に据える単元であり、農家の工夫や自然を克服したという視点に焦点化しないようにして実践を行っていった。過去の反省から、事例や産業をバラバラにしてしまうと農家の工夫に学習が偏ってしまうのではないかと考え、本実践では、事例を「スイカ」に揃えて、産業に焦点が当たるようにした。

小単元	事例地	産業
気候 (温暖)	沖縄	さとうきび
地形 (低地)	佐原 (香取市)	米



小単元	事例地	産業
気候 (温暖)	沖縄 (今帰仁)	スイカ 
地形 (低地)	富山 (入善)	

視点①

○子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり

「自然条件」に着目するための材の選定として、気候に着目する沖縄の「冬スイカ」と地形に着目する富山の「入善スイカ」を取り上げた。児童と教材の距離を近づけるため1時間目の展開を工夫した。全員参加を促すための「おきなワード」と「S社のご当地味」の資料を提示した。



S社のご当地味

富山県 スイカ味



どうして富山県が
スイカ味なの??

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味等に迫る授業づくり

「気候をもとに多様な考えで追究する」

Uさんがわざと収穫量を減らしている事実から「気候」をもとに多様な考えをもち、Uさんのスイカづくりの営みや価値を追究する姿が見られた。

「地形をもとに追究する」

前単元での学びを生かしながら「地形」に自然と着目することができるようにした。ここでしかできない入善スイカについて取り上げることで、人の営みを自分に生かそうとする姿が見られた。低地のおさえが不足してしまった。

3 協議会

視点①

- ・視点を揃えることで視点を絞ることができていたと感じた。
- ・低地の自然条件を生かしてスイカづくりが行われているかということが重要。低地のそれはスイカづくりに合っていたから良いと思う。
- ・揃えることで考えやすくなる。産業と生活を意識する上で、今回は富山の生活に関わることはどのように授業を進められたのか気になる。
⇒富山（低地）の生活については触れていない。黒部ダムができてから大きい水害は起きていない。
- ・低地単元の良さや魅力があれば聞きたい。
⇒児童の中では低地という認識が薄かったが、海に近いというところで関内など横浜と比較している児童もいた。高地は涼しいという気候に偏ってしまうと考えたため低地にした。

視点②

- ・資料の内容、提示の意図していたことはなにか。
⇒川の堤防のイメージがつきにくいと思ったため資料を提示した。
- ・地形に着目したC21やC26は最初からそうだったのか。
⇒C21は地形について調べていた児童。C26は自然が好きでそういった点に着目していた。
- ・学びあっている姿がたくさんあるが、どのような支援をしているのか
⇒ノートに考えたことを言うのは普通、今考えたことを言えるのはすごいと普段から伝えている。

<講師の先生より> 新治小学校 宮本 雅司 校長先生

新しい題材で挑戦しており、提案性のある実践だった。事例として「スイカ」をそろえたことで児童の主体性を引き出すことができていた。台風や水害を乗り越える人の営みの良さについて児童も捉えることができていた。ただ、スイカと言う目線に偏りすぎてしまった。低地だからスイカが良いというわけではない。低地を扇状地として考えることが学習指導要領で狙っているところなのか吟味する必要がある。社会科の授業はモヤモヤ感があると話があったが、問題の答えを追究していく過程で、色々な視点で話し合い、総合的に考える時間に意味がある。目標や評価規準で何を狙うのかを大切にしたい。進んで表現できない、まとめきれない児童には個別に支援してあげられると良い。